

10・26
川崎市長選

最後の訴え

川崎市長選の選挙戦最終日となった25日、各候補は人の往来が多いターミナル駅などに繰り出し、有権者に最後の訴えを届けた。雨がそぼ降る肌寒い悪天候の中、それぞれが市政への熱い思いを言葉に込め、14日間にわたる論戦を締めくくった。
(川崎市長選取材班) 〓右から届け出順、本記2面に



國谷 涼太氏 (25)

若さ全面駆け抜ける

「最後に何をしたいか。点を自らの足で駆け巡りながら政策を訴えた。25歳の自分にはできないことで覚悟を伝えたい」
「子どもたちが夢と希望を持ち、いつまでも川崎で暮らせるように。誰よりも責任ある世代として、皆さんと一緒に川崎をさらに前に進めてまいります」
これまで駅頭を中心に選挙戦を展開し、市内の55駅で市民と向き合ってきた。早大時代の同級生や後輩、会社の知人らがボランティア活動にも加わり、全世代への浸透を図ってきた。
「皆さんの力強い1票をよろしくお願いします」
最後は地元でもあり、政治家を目指すきっかけとなった演説を聴いた新百合ヶ丘駅でマイクを納めた。



野末 明美氏 (60)

市民寄り添うまちへ

「市民生活最優先。市民の声を聞き、市民生活に寄り添う川崎を市民の方々と共につくっていく。政党議員の野末明美氏。共産党推薦。JR川崎駅周辺でマイクを握り、「市民」を繰り返した。
中学校までの学校給食費の未来を切り開き、希望あ



福田 紀彦氏 (53)

公約訴え盤石を証明

川崎市の中心に位置するJR武蔵溝ノ口駅近くで、選挙戦最後の演説をしたのは現職の福田紀彦氏だった。これまでの政策や新たな公約を盛り込みながら、最後は多選批判を念頭に「情性でやるんだっつら、1期目でも、2期目でも」川崎市の中心に位置するJR武蔵溝ノ口駅近くで、選挙戦最後の演説をしたのは現職の福田紀彦氏だった。これまでの政策や新たな公約を盛り込みながら、最後は多選批判を念頭に「情性でやるんだっつら、1期目でも、2期目でも」



山田 瑛理氏 (42)

まちのために尽くす

元川崎市の山田瑛理氏は選挙戦最終日をJR川崎駅中央西口からスタート。選挙カーで地元の川崎区内を中心に回り、午後7時半頃からは同区にある町内会館前でマイク納めをした。「特定政党の支援もなく、裸一貫で手を挙げて挑戦し



関口 実氏 (67)

排外主義にあらがう

清掃員の関口実氏はJR川崎駅周辺などでマイクを握り、「腐った世の中を掃除しよう」と拳を握り、繰返し声を上げた。
腰や首に痛みを抱え、薬を服用し、時に疲弊で立ちくつみながらも電車を乗り継ぎ街頭に立ち続けた。自

災害時にベットと銅い主が避難

グ、散歩などを行つた説明を受けた上で、専用スペースが確保された。

◆災害時のベット避難
大震災でベットが自ら